

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2009年1月20日

1. 概要

実践団体名	藤枝市立藤枝中央小学校 P T A		
連絡先	054-641-0401		
プランタイトル	児童・保護者・教師が全員参加する実践的防災訓練（P T C大会）		
プランの対象者	小学生（低・高学年）、 教職員、保護者、地域 住民、その他（医療・ 防災関係者等）	対象とする 災害種別	地震

【プランの目的・ここがポイント！】

地域の防災環境を知り、参加型、体験的な防災教育に P T A が主体となって取り組んでいる。昨年は、防災や医療の専門家を招いての実践であったが、今年は、保護者、地域住民、児童も講師役を担当し、「自らの手で地域を守ろう」という本来のねらいがより強く打ち出された。内容の奥深さと共に取り組む楽しさを体験できた実践になった。

【プランの概要】

同じ地域に生活する登校班を単位に全校児童を 21 グループに分け、D I G、医療、知恵の 3 つのコーナーから 1 つずつ体験、学習する。

講師役を保護者や児童から募ることから本格的な取り組みが始まった。最初は自信のなかった応募者も、練習や打合せを重ねるごとに意欲を高めていった。P T C 大会当日は、初めて出会う参加者を前に落ち着いた態度で説明することができた。

現在、来年度の実践に向け、子ども達がクロスロードの問題づくりに取り組んでいる。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

P T A が主体となって取り組んでいる意義は大きい。学校が中心であれば総合的な学習の時間の有効活用、講師の依頼等、時間をかけて計画的に取り組むことができる。P T A が主体であるため、大会は 1 日に集約される。しかし、取り組みの段階で多くの方が関わり、自主的な表れがたくさん見られた。保護者や児童だけでなく、医療のボランティア方からも、地域ぐるみでの先進的な取り組みとして、大きな期待を寄せられている。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	全体計画確認 講師役の児童・保護者 を募集	講師役の児童・保護者 を募集する通知を配布	実行委員会開催 ・前年度の反省をもとに計画の確認 ・PTAが主体的に関われる内容を 検討
2008年 7月	実行委員会にてP TC大会の説明	P TC大会の全容を把 握してもらうため、委 員、講師役の方に説明	実行委員会のための資料確認・作成 他団体への働きかけ、調整
2008年 8月		必要な用具の確認、準 備	関係するボランティア団体と調整、 打合せ シナリオの検討、修正
2008年 9月	実行委員会 当日 の日程確認、グルー プ編成確認 PTAに通知配布	実行委員会資料作成	当日の日程、役割分担等調整
2008年 10月	児童への事前説明 会	登校班長会議 登校班会議 P TC大会	児童・保護者に当日の日程、会場を 通知 P TC大会運営（地域防災指導員、 医療ボランティア等参加）
2008年 11月	まとめ作成	アンケート集約	アンケートをもとに成果をまとめ る。来年度への課題、取り組みをま とめる。
2008年 12月	まとめ作成・配布 クロスロード検討		児童によるクロスロードの内容検討
2009年 1月	クロスロード検討		児童によるクロスロードの内容検討

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	通学路のハザードの図上訓練
実施月日（曜日）	平成 20 年 10 月 18 日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2 教室（①ブース、②ブース）
担当者または講師	担当者：①望月、塚本宗以知、望月 ②鈴木、鈴木、松浦和子 所 属：① P T A、防災指導員、教師 ② P T A、生徒、島田市民病院看護師
所要時間	30 分×3 回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A 活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	学校を取り巻くハザードを知る。地震のときの通学路を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	藤枝市のハザードマップで中央小の避難所、救護所の位置を知る。 中央小学校を取り巻く 3 つのハザード（地すべり、がけ崩れ、土石流）の意味を知る。 通学路ごとのグループで、学区の地図に普段の通学路を書き、災害時の安全な道を考える。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ハザードマップを拡大した地図、拡大した学区の地図、 場所を示す写真つき磁石（学校、救護所、避難所 3 ヶ所、橋、目印） 地すべり、がけ崩れ、土石流の、絵と説明 スタッフ用シナリオ
参加人数	（1 回に生徒約 20 名 P T A 1 2 名合計 32 名）×3 回×2 ブース
経費の総額・内訳概要	模造紙 ラッションペン マグネット 7, 0 0 0 円位
成果と課題	【成果】避難所の位置と意味、救護所の位置と意味を理解できた。 教師、生徒、P T A が学校と通学路のハザードを理解できた。 【課題】体験的な要素を取り入れたシナリオを検討する。児童の手による追求、発表を取り入れたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	人的被害想定の図上訓練
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース）
担当者または講師	担当者：①岩澤、鈴木保子、成沢善治②伊久美愛、成島実、杉山 所属：①P T A、島田市民病院看護師、防災指導員 ②P T A、防災指導員、教師
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	東海地震で自分の住む町に想定されている、建物倒壊、焼失家屋、死者、重傷者、中等傷者、生き埋めの数を知る
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	人的被害想定表から町ごとの人的被害総定数を読み取る。 人的被害総数を表すグラフを参加者全員で作成し、数を把握する。 中央小の避難所、救護所の位置と意味を知る。 二つの学区から救護所に集まるけが人の数を計算する。 救護所に来る想定医師数7名で足りるのかどうか、他から応援の医師がくるのかどうか、考える。 火災が起きること、火を出さないことの大切さを教える。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	共通の救護所になっている中央小と藤枝小の学区の地図、 人的被害想定表 グラフの枠 グラフに数値を表示するための磁石 スタッフ用シナリオ
参加人数	（1回に生徒約20名P T A12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	磁石 模造紙 ポスタープリンター用紙 付箋 マグネットシート 工作用紙 水性ペン 16,000円位
成果と課題	【成果】救護所が二つの学区共通であること、多数の負傷者が集まり、医師数は少ないことを理解できた。 【課題】けがをしない、被災しないことにつなげる意識づくり。医師が少ないという事実をもとに話し合い活動を取り入れたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	負傷者の流れの図上訓練
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース）
担当者または講師	担当者：①尾白幸生、村上康子、金石②高木直人、牧田、浅井園子、 所 属：①市防災課、島田市民病院看護師、教師 ②市防災課、P T A、静大保健管理センター看護師
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	学区で互助を機能させるための意識づくり
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	学区でけが人が何人出るかを知る。 隣の学区と共通の救護所に集まるけが人の数を知る。 負傷者の数と、医師の数や救急車の数を対比することで、応援を求めても来ないことを理解する。 学校で重傷のけが人が出た場合、学校から救護所、救護所から病院まで誰がどういう手段でどの道を運ぶのかを地図の上で考える。 救護所で応急処置は医師だけではできないことを知る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	拡大した地図。 被害想定表。藤枝市の消防や医師の数の表。 場所を示す写真つき磁石（学校、救護所、避難所3ヶ所、橋、病院） スタッフ用シナリオ
参加人数	（1回に生徒約20名P T A12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	模造紙 拡大コピー ラッションペン マグネットシート 12,000円位
成果と課題	【成果】地域のおかれている状況を理解し、医療や消防に頼れないことを理解することができた。どうしたらよいかをみんなで考えた。 【課題】自治会、自主防などの参加を目指したい。負傷者を搬送する大変さを体験的に学びたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	トリアージ
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 3教室（①ブース、②ブース、③ブース）
担当者または講師	担当者：①池田佳子、河守悦子、大谷幸美、鈴木②伊藤恵、安田智佳、安田なな③木下千世路、野上愛里、望月俊明 所 属：①島田市民病院看護師、島田市民病院看護師、島田市民病院看護師、教師 ②島田市民病院看護師、P T A、児童 ③県立病院看護師、静大保健管理センター看護師、県立病院看護師
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	トリアージの考え方を理解する。実際にトリアージしてみる
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	自治会からの模擬患者役を15人に前もってけがのメイクをする。 模擬患者が1名ずつ前に出て演技する。トリアージ表を全員に配り、 医師役看護師役の児童がトリアージする。全員、表を見ながらトリアージして色つき荷札をかざす。 スタッフが模擬患者のけがとトリアージの説明をする。 大災害時トリアージが必要な理由、状況を説明する。
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	人材：模擬患者15名、看護師7名 道具・材料：メイクキット、トリアージタグ、トリアージ表、 3色の荷札、スタッフ用シナリオ
参加人数	（1回に生徒約20名P T A 12名合計32名）×3回×3ブース
経費の総額・内訳概要	メイク材料はNPOに依頼。
成果と課題	【成果】トリアージの目的と方法を理解できた。重傷者は病院へ軽傷者は救護所への流れが理解できた。けがをしないように備える必要性が理解できた。 【課題】時間が短く表面をなぞって終る。次回は演習を行いたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	クラッシュ症候群
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース、）
担当者または講師	担当者：①気田千恵美、鈴木哲子、石橋②松本百合子、鈴木奈美 所 属：①県立病院看護師、島田市民病院看護師、教師 ②静大保健管理センター看護師、県立病院看護師
所要時間または「コマ数×単位時間」	30分×3回
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	クラッシュ症候群を知る。患者への対応を理解する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	瓦礫に見立てた発泡スチロールの下敷きの人を皆で助ける。 無事救出された人が突然死亡する。 なにが起こったのか。どうすればよかったのかを紙芝居で説明する。 もう一度発泡スチロールの瓦礫の下敷きになった人に水を飲ませながら助ける。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	発泡スチロール 紙芝居 ペットボトルお茶 スタッフ用シナリオ
参加人数	（1回に生徒約20名 P T A 12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	ペットボトル 画用紙 マグネット 3,000円位
成果と課題	【成果】2年続けて行ったことで、クラッシュ症候群の原因、病態、救出の時の対応まで含め子供でもかなり理解しており、また保護者の反応も大きく、救出は市民の仕事ということも理解された。 東海地震で役に立つことが期待される。 【課題】学校から外にも広げたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑥】

タイトル	けがの応急処置
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース、）
担当者または講師	担当者：①池谷直樹、曾根春奈、小野田芳郎 ②加治由記、望月雅美、伊藤泰乃 所 属：①静大保健管理センター医師、島田市民病院看護師、防災指導員②静大保健管理センター看護師、県立病院看護師、島田市民病院看護師
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（P T A活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	自分の身近にあるものを使って、けがの応急処置ができる。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	説明図を貼る。二人一組で互いに患者になって交互に練習する ① 出血を止める；ビニール袋などを手袋代わりに直接押さえる。 ② 骨折の固定；ダンボール、板切れ、週刊誌やタオル、ガムテープを使って骨折の固定をする。 ③ 傷の手当て；水で洗いラップを貼る。消毒やガーゼを使わない方法。 ④ 火傷の見分け方、処置
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	週刊誌、ダンボール、木切れ、ラップ、タオル、ビニール袋、ガムテープ、ワセリン、スタッフ用シナリオ
参加人数	（1回に生徒約20名P T A 12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	ラップ、タオル、ガムテープ、ワセリン、手袋、ハサミ、ビニール袋、ビニールテープ、バンドエイド、マグネット 15,000円
成果と課題	【成果】 日常でも使えるけがの対処法を実技で覚えた。 【課題】 実際に使うためにはもう少し長い時間の講習が必要。 病院に行ったほうが良いものとの見分け方も覚える必要がある。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑦】

タイトル	ロープワーク
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 3教室（①ブース、②ブース、③ブース）
担当者または講師	担当者：①酒井達陽、望月、佐藤 ②神谷義男、中西、紅林親子 ③小林、山田、堀井親子 所 属：①ボーイスカウト、PTA、PTA、児童②ボーイスカウト、PTA、PTA、児童③PTA、PTA、PTA、児童
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（PTA活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	自分の身近にあるものを使って、2階から避難する方法を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	ロープワークの方法を学ぶ 1 もやい結び 2 本結び 3 巻き結び 2階から避難するには、部屋にあるシーツやカーテンを活用することを学ぶ。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ロープ 実践用の細い紐 ラップの芯
参加人数	（1回に生徒約20名PTA12名合計32名）×3回×3ブース
経費の総額・内訳概要	ロープ 紐 10,000円
成果と課題	【成果】 日常でも使えるロープワークの結び方を体験を通して理解できた。 【課題】 実際のロープを使って実践したかった。身の回りにある物を活用してロープの変わりに利用する体験を取り入れたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑧】

タイトル	紙ぶるる
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース、）
担当者または講師	担当者：①渡部、小泉親子 ②東田、浅原亮太 所属：①PTA、PTA、児童 ②PTA、児童
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（PTA活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	紙ぶるるのキットを活用し、筋交いにより家の強度が増すことがわかる。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	保護者と子どもがペアになり、紙ぶるるを作成する。 筋交いを入れた場合と入れなかった場合を比較し、筋交いの働きについて理解する。 帰宅後、自分の家の構造について話し合う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	紙ぶるる、ゼムクリップ
参加人数	（1回に生徒約20名PTA12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	紙ぶるる ゼムクリップ 25,000円
成果と課題	【成果】家の筋交いの働きについて理解することができた。講師役の児童がわかりやすく説明することができた。 【課題】紙ぶるる作成は、低学年の児童だと一人では難しかった。大きな模型を作成し、説明できるようにしたい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑨】

タイトル	クロスロード
実施月日（曜日）	平成20年10月18日（土）
実施場所	藤枝中央小学校教室 2教室（①ブース、②ブース、）
担当者または講師	担当者：①高塚秀和、畠山、塚本佳子 ②櫻井郁子、松本健一、田村、三谷一美 所 属：①中部防災局職員、教師、島田市民病院看護師②中部防災局職員、中部防災局職員、PTA、静大保健管理センター看護師
所要時間	30分×3回
プログラムの カテゴリ、形式	イベント・行事、その他（PTA活動）
活動目的	遊び・楽しみながらの防災、災害に強い地域を作る、防災に関する知識を深める
達成目標	実際に起こりうる状況について、クロスロードを通して考える。親子で話し合い、被害への対応を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	クロスロードについて、やり方を説明する。 5人または7人のグループを作り、クロスロードを実際にやってみる。 YESかNOか、理由を発表しあう。他の人の考えを聞いて、自分の考えを振り返る。
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	クロスロード（市民編）
参加人数	（1回に生徒約20名PTA12名合計32名）×3回×2ブース
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】災害時に起こりうる様々な状況について理解を深めることができた。自分や家族の行動について、話し合う機会となった。 【課題】内容が難しく、低学年の児童には理解できない物があった。中央小にあったクロスロードはできないか、検討したい。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑩】

タイトル	クロスロード作成
実施月日（曜日）	平成20年12月11日（火）
実施場所	藤枝中央小学校 5年
担当者または講師	担当者：石間澄枝 所 属：藤枝中央小学校職員
所要時間	45分×4
プログラムの カテゴリ、形式	学級活動
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	自分の地域や生活を見直し、災害時の対応について考える
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	クロスロードをやる。 言葉の難しさ、内容の難しさを指摘し、自分たちに合ったクロスロードづくりに挑戦する。 自分で問題を作る→友達と検討する→実際に地域を歩き、様々な場での起こりうる事象を想像する→問題を完成させる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	クロスロード 問題作成用紙
参加人数	5年生 35名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】防災の知識を自分たちの身近な環境にあてはめて考えることができた。 【課題】完成までには、時間をかけた検討が必要である。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>小学校低学年から父兄まで理解できるようにするためと、防災を難しいと思わせないために、大きな図や表を貼りだした。できるだけ専門用語を使わないように言葉をやさしくし、さらにシナリオは教師やお母さんたちが手直しをした。題材を身近な例からとることで、わが身のこととして考えられるように、そして一般論の学習ではなく、東海地震で実際に役立つものにした。また講義型でなく参加型の訓練にした。</p> <p>スタッフにとっても勉強であり、各組織が 1 箇所に固まらないようにできるだけばらつかせた。結果としてブース運営の打ち合わせが不十分になった。それを克服するために、詳細なシナリオを作り、誰でも息を合わせられるようにした。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>より自らの手による防災活動につなげるため講師役を児童・保護者から募集することとしたが、どのような内容であればできるのか、どのくらいの人数が集まるのか非常に心配した。知恵コーナーを中心に P T A 役員が支援できる体制を整えた。また、講師役となる児童・保護者は、大会当日担当ブースに張り付きとなるため、P T C 大会全体の様子を把握してもらうため、事前に丁寧な説明会をもった。具体的な資料も提示され、意欲を高めることにつながった。</p> <p>ボランティア団体には、担当者を決めて関わったが、数が多いこともあり、細かな連絡調整にいくつか不具合が生じた。全体を把握、掌握して指示を出す必要があった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>3つのコーナーから各 1 ブースを昨年と重ならないように体験するため、調整が難しかった。自主性を高めるために、体験したい内容を自主的に決定し、調整する方法をとることも今後の検討課題として出された。同じ内容であっても、強い必要感から再度の学習を望むのであればそれも認めていきたい。</p> <p>30分という時間設定があるため、各ブースでの時間配分が心配された。しかし、講師の計画的な運営によりスムーズに進行することができた。丁寧な打合せや練習を重ねた結果である。事前準備で、低学年の子にも取り組めるようシナリオの検討が図られたため、児童や保護者の参加態度もよかった。</p> <p>はじめの全体会を放送で実施し、移動を少なくしたことで活動に早く取り組むことができた。</p> <p>本年度の活動を振り返り、次年度につなげるために、児童と保護者、講師を務めてくださった医療関係者等に感想を記入してもらった。大変高い評価をいただき、継続して実施した成果を強く感じた。</p>

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	静岡大学保健管理センター 藤枝中学校生徒	講師として6名 模擬患者として2名
保護者・ PTAの組織	藤枝中央小学校PTA	主催者
地域組織	自治会 防災指導員	模擬患者として13名 講師として4名
国・地方公共団体・ 公共施設	静岡県中部防災局 藤枝市防災課 静岡県立総合病院 島田市民病院	講師として3名 講師として2名 講師として5名 講師として11名
企業・ 産業関連の組合等	静岡ガス	講師として2名
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	ボーイスカウト NPO 災害・医療・町づくり	講師として2名 運営係として3名
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>「自分たちの命は自分たちで守る」ということをより強く意識することができた。保護者の感想の中には、知識不足であることを反省するもの、こうした機会に親子で学習を進めたいという内容のものが多かった。参加できなかった父親を交えて家で話し合ったというものもあり、回を重ねる意義を再確認できた。市内の小中学校への資料配付も行った。参加された方からも、学ぶべき点が多かったという感想が寄せられた。</p> <p>保護者・児童が講師役となり、ボランティア団体の方と一緒に実践したことにより、来年度はより自主的な取り組みが期待できる。また、地域の防災指導員の関わり、ボーイスカウトの関わりも相互にプラスであった。今後、PTC大会への取り組みが他の地域へも波及していくことが期待できる。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>3つのコーナーを設置して取り組む2年目の実践であったため、大きな成果を残すことができた。参加者の意識が高かったことには本当に驚いた。昨年の学習がベースとなり、その上に新しい学習が展開できた児童が多かった。また、保護者も子どもと一緒に防災について考えるよい機会ととらえ、真剣に講師の説明に聞き入っていた。</p> <p>講師の中には当日初めて顔を合わせる方もいたが、シナリオをもとに打合せ、3回の実践の機会を生かして、主担当の交代、調整を行うことができた。</p> <p>大会だけで終わらず、児童や保護者の感想をもとにクロスロードの検討等、来年度に向け動き出すことができたのは、大きな成果である。こうした表れから子どもが主となるブースの展開も可能であると期待している。地域の防災指導員の意識も高く、来年度は地域での取り組みも内容に加えていきたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>来年度も継続実施の予定である。負担を少なくし継続実施を考えている。</p> <p>より自主的な取り組みを強化するため、児童・保護者の講師役、地域のライフラインに関わる企業への働きかけを行い、ブースの拡大を図る。特に力を入れていきたいのは、自治体との関わりである。防災指導員の方との連携、自治体、保健指導員の方への働きかけも行い、それぞれの立場でできることを実践する場としていきたい。卒業生である中学生の協力も期待している。</p> <p>また、参加する児童は登校班を単位とするが、体験する学習は児童の思いを優先して決定できるようにしたい。学習内容を多様化することにより、参加型の学習をより強めていく。そのためには、PTAを中心に関係団体・自治会等と早くからの打合せ調整を計画していきたいと考えている。</p>

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

◇藤枝中央小学校の P T C 大会は、児童、保護者、教師が揃うまたとない場です。ここで防災に取り組むことで、災害を自分たちの身近な視点で捉え、自分や家族のこととして行動に移すことができるのではということを期待しての 2 年間の試みでした。さらに地域の自治会や防災指導員、中学生、行政の参加をお願いしたことで地域にも刺激を与えたと思います。

昨年は、学校の周りのハザードを誰も知らず、したがって中央小が、避難所や救護所に指定されていない理由もほとんどの人は知りませんでした。救護所と避難所の区別も、救護所の位置もほとんどの人は知らなかったのです。しかし昨年訓練を行ったことで防災の意識は確実に上がり、今年度は出席した保護者の数、特にお父さんたちの参加が増えました。また保護者や児童も講師役として参加したことで、自分たちの訓練という意識が生まれました。訓練内容については身近なハザードや、負傷者の数、市の消防の体制、普段のような消防や医療の支援を受けられないときの応急処置などをとりあげました。学習の中で東海地震の際のために知らなければならないことだと皆さん理解してくれ、低学年の児童まで真剣に話を聞いてくれました。家に帰ってから出席しなかった家族も含め親子で災害時の家や家族の対応について話し合いをしたところもあったようです。防災教育なので、子供たちが防災意識をもって育て、いつか役に立つことができれば大会の意義はあるのだと思います。しかし東海地震が想定されている静岡です。具体的に役立つもの、例えば中央小の P T C 大会に参加したために助かったとか、人を助けることができたとかいう自助、互助につながることを目指したいと思います。そのためには学校から発信し、地域の人たちを取り込むような運動になっていくことが望まれます。今回の訓練の目的を「東海地震で遭遇する状況をみんなが知る」ことに置きました。従って被災前の準備には触れず、被災後の対応しかとりあげていません。しかし、わが身、わが家族、わが家のことに帰結させ、結果として災害への備えを考えた感想文もありました。最終的にそこに行き着いてくれれば P T C 大会は大きな成果を残したといえると思います。今年度はまだそこまでたどり着いたとはいえませんが、防災、わが身を守る、そして自分が無事なら周りを助ける、という意識はみんなに植えつけたのではないのでしょうか。

低学年の児童を含めみな目が輝いて、見、聞き、考え、動いてくれました。そして昨年の P T C 大会で知ったことを覚えていてくれました。大人でも敬遠する防災の事例も具体的な例を取り上げ、丁寧に説明することで小学生でも真剣に学習し理解できることに感動しました。また普段の防災訓練に参加することが少ない働く世代の保護者が多数参加することに小学校での P T C 大会の魅力と可能性を感じました。

防災では自助、互助が大事といわれています。静岡県も「倒壊一TOKAI-O」をスローガンにしていますが、なかなか浸透していません。その理由は①大きすぎる話は市民にはなじまない。②防災の備え、訓練が一般論になっていて、毎年どこでも同じ訓練をしているからだと考えます。市民は自分の家族のことや自分の町からはじめ、そこに実際に役立つ対策には興味も持てるし、公助が頼れないこと、わが身わが家族を自分で守る必要性が理解できれば行動に移す、と考えます。藤枝中央小学校の P T C 大会は、東海地震への自助・互助づくりへのチャレンジです。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

◇10月にPTC大会を実施している本校の児童は、防災や緊急時の対応について、専門的な知識を有しています。日常生活の中では、特に意識することはありませんが、6年生が保健の授業で命の尊さについて学習した際、トリアージのこと、応急処置のこと等が、子どもの口から語られました。自然に、生きた知識として子ども達の中に浸透していることを大変嬉しく思いました。

保護者の感想からは、応急処置の方法が、昔とは大きく変化していることへの驚きが、たくさん書かれていました。自分が以前得た知識も、時代が経つと変わってきます。いつでも、よりよいものを吸収し、実践していく必要を意識できたことは、防災だけでなく、多くの人の生き方にプラスとなったように思います。今後、学校からの情報や子どもからの知識も新鮮に受け入れることができるでしょう。

「クロスロードの内容が難しかった。」「読み手役の子が字が読めない。」「言葉が難しくてわからない。」・・・保護者の登場する場があってよかったのですが、もっと小学生にわかりやすい内容に置き換えることはできないか、自分たちの身近に起こりうる問題を考えることができないかと考えました。総合的な学習で防災に取り組んでいるわけではありませので、追求する時間は充分とれないのですが、来年最上級生となる5年生とクロスロードづくりに取り組んでみました。問題を作るのはなかなか難しいのですが、子ども達は友達と意見を出し合い、まとめていきます。たいしたものです。いつもの授業とは異なり、生活力のある子、地域を見つめている子が、リードしている点も興味を惹かれました。実際に、災害に見舞われたときも、さまざまな人が自分の持ち味を活かして助け合うことでしょう。

来年度は、地域住民へのはたらかけを強化すること、より自主的な無理のない取り組みとすることが課題です。しかし、それもブースのいくつかを子ども達が担当し、子どもの発想で展開していくことで、自然に地域の方も足を運び、興味を示すものになるのではないのでしょうか。子どもの視点で地域を見つめ直すと、はっと驚かされる提案も出てきそうです。

より柔軟に、しなやかに質の転換、運営の転換を図っていきたいと思っています。

《5年生が作ったクロスロード》

- あなたは登校中。学校の近くで地震発生。ブロックが落ちてきて1年生が足を骨折してしまった。あなたは、学校の先生に連絡する？それとも、救護所に連れて行く？
- 家庭科室で調理中に地震発生。そのままグラウンドに避難した。ガスの元栓を閉め忘れたことに気づいた。このままにしておくと火事になるかもしれない。家庭科室は裏山に近いので崖崩れの危険もある。あなたは、元栓を閉めに戻る？それとも、そのままにする？
- 一人で下校中、地震発生。幸いけがをしなかった。家にはお母さんがいるが、今いるところからは遠い。学校なら安心。あなたは、家に戻る？それとも学校に行く？
- あなたが家で留守番しているとき、地震発生。いろいろなものが落ちてくる。足を痛め、避難所に行くことができない。家族はきっと避難所に行っている。あなたは、家族が帰ってくるまで家で待ちますか？なんとかして、避難所に行きますか？

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ③

クロスロード



トリアージ



ロープワーク



応急処置



紙ぶるる



通学路D I G



負傷者の流れ



人的被害

